

# 元証券マン「夢もう一度」テスト合格

## 野球への情熱 独立リーグで

つくばの小松原さん



夢を追い続ける小松原さん

野球選手の夢を一度はあきらめた若者が今年、プロ野球・関西独立リーグ「大阪ホークスドリーム」(大阪府)のテストに合格した。筑波大硬式野球部で明治神宮大会に出場した実績を持つ元証券マンの小松原鉄平さん(26)(つくば市春日)。選手としてのキャリアを積み上げ、将来は医学的トレーニングの架け橋役という新たな夢を掲げ、プロとしてのスタートを切る。

小松原さんは強豪・岡山を断念。野村証券に入社し、県立岡山城東高を経て筑波大に入学。巧打の外野手として3番を任せられ、大学4年秋には明治神宮大会出場に貢献した。卒業時は社会人野球の勧誘を受けたが、「いつかは独立して事業を興したい」との思いで野球

を断念。野村証券に入社し、配属された厚木支店(神奈川県)で仕事に没頭した。眠っていた情熱に火がともったきっかけは、仕事に余裕が出た2年目。筑波大野球部の友人が設立し、誘われるまま軽い気持ちで参加したクラブチーム「TS

ukuba Club」で、壁に突き当たったことだった。毎週土日に神奈川県から、つくば市まで電車で片道2時間かけて通ったチームでは、最初こそ本塁打を放つのが好調だったが、すぐに不振に陥った。

学生時代は「バットを一番振った奴が打つ」と信じていた。しかし、1日に何千回もバットを振った学生時代と異なり、社会人は時間がない。そんな制約を乗り越えたのは「仕事で覚えた頭の使い方」だった。試した練習は、インターネッ

トの動画サイトを見て、プロ野球選手の動きをイメージしながらバットを振った。一振りに30秒の時間をかける「超スロースイング」。少ない練習量で、大

学時より強い打球を放てるようになり、野球への情熱が復活した。

決断の「一打」は昨年5月。試合で右中間の深いところに「今まで打ったことのない完璧な本塁打」を放った。ぐんぐん伸びていく打球と手に残る感触。「学生時代がピークではない。もっとうまくなれる」と感じ、同年10月に退社。大阪ホークスドリームのテストに挑戦し、今年1月に合格した。

プロ野球選手になった小松原さんには、夢の続きがある。まずは選手としてキャリアを積み上げた後、近年主流になった「医学的トレーニング」で、選手と医者をつなぐ役割を果たすこと。自身のビジネス経験に加え、選手経験も極めれば、架け橋になれると信じているからだ。「野球界、スポーツ界の発展につながる新たな事業を立ちあげたい」。ビジネス界から転身した「オールドルーキー」は、そう語りながらバットを握りしめた。

漫遊記

明利酒類 029-247-6111